

秋の叙勲 県内関係者は44人

平成29年秋の叙勲の受章者が3日付で発表された。県関係では、地方自治や警察、保健衛生、教育などさまざまな分野で地道な活動を続け、社会に貢

献した44人が受章した。男性は40人、女性は4人。最高齢は84歳、最年少は59歳だった。
(24面に中授章以上の受章者名簿)

島精機創業55年の節目

旭日中授章

元和歌山商工会議所会頭

島正博さん(80)

和歌山市

「80歳になり、創業55周年を迎える節目にただけて、感激、感謝している。みなさんのおかげで微力ながら一生懸命頑張ってこられたと思います」

大手縫い機メーカーの島精機製作所(和歌山市坂田)の創業者で6月に会長に就任した島正博氏(80)は、にこやかに受章の喜びを語った。

10代の頃から発明に熱中し、

今では「紀州のエジソン」とも呼ばれる島氏。昭和39年12月、不眠不休で開発した「全自動手袋編機(角型)」は今年、日本機械学会の機械遺産に認定された。無縫製ニットウェアを作る技術「ホールガーメント」にも

今回の受章について、平成25年に亡くなった妻の和代さんが「生きていたら、喜んでくれただろうと思う」と涙ぐむ。

(後進には)「愛」と「氣」と「創造」という人間にしかないものに力を入れてほしい」と熱く語った。

(福井重加梨)



ミカンへ飽くなき探求

旭日単光章

元早和果樹園社長

秋竹新吾さん(73)

有田市

吉備(現・有田中央)高校柑橘園芸科を卒業。近隣の農家と同社を設立したが、ミカンの価格暴落も経験した。

柑橘類の生産・加工・販売業を営む早和果樹園の社長として、ミカン100%のジュース「味一しほり」の開発に携わるなど、有田ミカンの6次産業化に携わってきた。「ミカンしか知らない私には縁遠いものだと思ってきました」。秋竹新吾氏(73)は、受章の驚きを語った。

現在は、海外にも展開する。

「ミカンなしの人生は考えられない。熱心に手をかければかけるほどいいミカンが育つ。これからも魅力を発信していきたい」とミカンへの飽くなき探求から父親の仕事を手伝った。県立

(小笠原優也)



ミカンへ飽くなき探求

旭日単光章

元早和果樹園社長

秋竹新吾さん(73)

〓有田市

吉備(現・有田中央)高校柑橘園芸科を卒業。近隣の農家と同社を設立したが、ミカンの価格暴落も経験した。

柑橘類の生産・加工・販売業を営む早和果樹園の社長として、ミカン100%のジュース「味一しぼり」の開発に携わるなど、有田ミカンの6次産業化に携わってきた。「ミカンしか知らない私には縁遠いものだと思ってきました」。秋竹新吾氏(73)は、受章の驚きを語った。ミカン農家に育ち、幼い頃から父親の仕事を手伝った。県立

平成16年に開発した糖度12度以上のミカンを使った「味一しぼり」は、高速道路のサービスエリアなどで試飲・対面販売を繰り返すうちに今では同社の主力商品となった。

現在は、海外にも展開する。「ミカンなしの人生は考えられない。熱心に手をかければかけるほどいいミカンが育つ。これからも魅力を発信していきたく」とミカンへの飽くなき探求は続く。

(小笠原僚也)